

非核平和への願い

本市は、全ての国の核兵器の廃絶と軍縮を願い、平成18年3月に「非核平和都市」を宣言しています。

この宣言の理念に基づいて開催した「非核平和学習会」では、市内の子どもたちが戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさなどを学びました。学習会で子どもたちが感じたことを通して、平和の尊さについてあらためて考えてみましょう。

【問い合わせ】本庁総務課(☎24・21111内線219)

戦争のない世界を目指して



若葉小6年
高橋 亜加梨 さん

昔、この日本は、何度も戦争をしていました。戦争でたくさんの方が亡くなったことは、絶対に忘れてはいけないことだと思います。学習会では、実際に被爆体験された方からお話を聞いて、もう二度と戦争をしてはならないと強く思い、一人一人が戦争をしない、したくないと思うことが平和につながるのだと分かりました。残念ですが、世界を見ると、まだ戦争が続いているところがあります。いつか世界中が平和になるように、少しずつ戦争の怖さや、むなしさをお互いに理解することから始め、手をつなぎ、助け合いながら平和を目指していきたいです。

平和への願い



桜台小5年
大友 理緒 さん

この学習会に参加して、一番恐ろしいと思ったことは、原子爆弾による後障害です。後障害とは、やけどが治ったあとが盛り上がるケロイド症状や白血病などの病気です。被爆直後には体に異常がなかった人も、何年も経った後に発症して、今現在も苦しんでいる人がいることを知って、原子爆弾の恐ろしさをあらためて感じました。
戦争は、みんなの心も身体も傷つけます。子どもも大人もみんな傷つき苦しみます。私は、この地球上から核、戦争、そして人を平気で殺そうと思うような心がなくなり、平和な世界がつくられて続いてゆくことを願っています。

非核平和学習会に参加して



南城小6年
岩館 佑奈 さん

学習会では、広島平和記念資料館などさまざまな施設を見学し、被爆した方から当時のお話を聞いてきました。日本では、戦後69年が経ち、これまで戦争をしないでいられたのは、もう誰にもあんな恐ろしい思いをさせたくないという人々の願いがあったからなのだと思います。しかし、世界では今も内戦や戦争でたくさんの方が亡くなっています。日本や世界が平和であるためには、戦争を起こさないこと、核兵器を造らないことだと思います。私は、世界が平和になるよう、この3日間で学んだことを、できるだけ多くの人に伝えていきたいと思っています。

原爆のことを知って



矢沢小5年
中辻 壮一郎 さん

学習会に参加して見たこと、聞いたことから原子爆弾の恐ろしさと戦争の悲惨さを知りました。広島赤十字・原爆病院の訪問では、石田照佳院長から当時の様子を聞きました。医療機器や医薬品がほとんどない状態だったそうですが、みんなで助け合っていたから、大勢の命を救えたのだと思いました。
原子爆弾は、そのときに亡くなった人だけでなく、69年経った今でも放射能を浴びた人々を白血病などの病気で苦しめています。こうした原子爆弾の恐ろしさや戦争の悲惨さを、僕の周りの人たちにも知ってもらいたいと思います。

非核平和学習に参加して



矢沢小5年
菊池 知大 さん

僕は、広島に行く前まで、原子爆弾がどれだけ恐ろしいものなのか分かっていませんでした。でも、実際に行ってみると、自分が思っていたものより、はるかに恐ろしいものでした。僕と同じ年ぐらいの人が、原子爆弾の被害を受けて焼け野原になった町を見たときの気持ちを思うと、とても悲しくなり、平和とはどんなに大切なものなのかをあらためて感じました。この3日間の体験から自分ができることは、戦争をしても何も得することはなく何も意味がないということをもっと多くの人に伝えていくことだと思いました。



「平和の鐘」をつく参加児童。戦争のない平和な世界への思いを新たにしました。



▲被爆体験講話の様子。原子爆弾を体験した被爆者自身の言葉から、戦争の悲惨さ、平和の大切さを学びました。

非核平和学習会
 ■日程 8月4日～6日(3日間)
 ■場所 広島平和記念資料館、広島赤十字・原爆病院ほか
 ■参加者 市内小学生9人

▼核兵器の惨状を今に伝える原爆ドーム

